

長期戦略:テーマ 「関西学院のアイデンティティ共有」

提出日 2020年 8月 25日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	舟木院長 (法人部)	実施計画の 担当部署	法人部
-----------------------	---------------	---------------	-----

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(2)-① キリスト教主義に基づく関西学院アイデンティティの浸透を推進するための主管部署の整理・再検討およびその内容の開発	2019年度	2021年度	必要なし	不要
内容 これまで各学校や大学各学部のアイデンティティの浸透は、各校の校長や宗教主事、吉岡記念館、学院史編纂室等が中心となって担ってきた。総合学園として学校の数や規模が大きくなるにつれて、アイデンティティの浸透を堅持していくには、しっかりとした仕組みづくりが不可欠である。まず、アイデンティティの浸透を担う関係者がさらに連携を深める必要がある。そのため、2019年度に、院長が中心となって、宗教主事会、宗教センター、学院史編纂室等のアイデンティティ浸透を担う関係者と関係部局で協議会設置に向けての準備をおこなう。協議会において、それぞれが担う役割、連携が必要な事項、今後強化すべき課題等を確認したうえで、推進体制を見える形にする(仮称:「アイデンティティ浸透協議会」事務局:吉岡記念館)。なお、2019年度に、院長、宗教総主事等が一斉に交替となる。そのため、検討は、次年度の体制が整ってから着手する。 さらには、協議会で成果を通じて、在校生、教職員のみならず、卒業生や保護者への浸透を図っていく。 なお、2018年度中に開始予定の吉岡記念館の在り方の検討ワーキンググループ(2018年度構成メンバー:田淵・舟木・富田・嶺重・中道・夏目)も目的が重なっているため、連携をはかる。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	協議会の発足	「アイデンティティ浸透協議会(仮称)」が発足しているかどうか		
指標2	アイデンティティ浸透のための取組み数	協議会の活動から生み出されたアイデンティティ浸透のための取組み数		
指標3				

目標1<指標1> 協議会の発足

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	学内調整が済んでいる	協議会が発足し、活動を開始している	活動を継続している	活動を継続している		
実績	各参画組織の長との確認・調整が済んでいる					

目標2<指標2> アイデンティティ浸透のための取り組み数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	(協議会発足後に目標を設定する)	(協議会発足後に目標を設定する)	(協議会発足後に目標を設定する)		
実績	—					

目標3<指標3>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
「アイデンティティ浸透協議会(仮称)」の発足および具体的検討	策定段階	学内調整	協議会の活動開始	協議会の活動継続	見直し	見直し後継続
	2021 年 3 月末段階	—	—	—		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	継続	見直し	見直し後継続	継続	
	2021 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2021 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2021 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	アイデンティティ浸透協議会設置に向けて、神学部、宗教主事会、宗教センター、人権教育研究室、キリスト教と文化研究センター、ボランティア活動支援センター、千刈キャンプの各組織の長と確認・調整し、それぞれ参画について内諾を得た。
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	<p>【方向性】当初のロードマップのとおり、仮称「アイデンティティ浸透協議会（事務局：吉岡記念館）」を2020年度に発足させる方向で、院長、法人部、吉岡記念館事務室が関係部局間の調整や課題の確認・共有等の各種調整を行う。協議会発足後は、院長のリーダーシップのもと、神学部、宗教主事会、宗教センター、人権教育研究室、キリスト教と文化研究センター、ボランティア活動支援センター、千刈キャンプがそれぞれ役割分担・連携して、アイデンティティ浸透のための取り組みを推進する。また、その推進のために必要な各部（広報室、校友課、同窓会、各学校等）との情報共有及び意見交換のため、協力の要請を行っていく。</p> <p>【課題】協議会の事務局、及び具体的取り組みを推進する各組織の事務を担当する吉岡記念館事務室は、担当組織の増加（ボランティア活動支援センター、千刈キャンプ）や事務職員の減員等もあり、現課員は既存業務の安定的運用に注力せざるを得ず、余力のない状況にある。協議会発足のためには、適正な人員配置（「3. 費用計画・人員計画」に記載）が必須である。</p>
2020年度	<p>【方向性】協議会設置に向けて「アイデンティティ浸透協議会設置趣意書」（案）を作成し、神学部、宗教主事会、宗教センター、人権教育研究室、キリスト教と文化研究センター、ボランティア活動支援センター、千刈キャンプの各参画組織に確認中（9月末を目処に確定予定）。趣意書確定後、協議会を発足させ、具体的取組みに向けた活動を開始する。</p> <p>【課題】2019年度に記載した協議会事務局（吉岡記念館事務室）の人員体制に係る課題は引き続き残っている。協議会立ち上げ期となる当面の間は法人部と連携することで対応するが、各種取組みを実施する段階では、適正な人員配置が必要となる。</p>
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	—
2019年度	人員増については、下記 4-(2)-③と含めて判断いたします。
2020年度	人員増については、下記 4-(2)-③と含めて判断いたします。
2021年度	
2022年度	
2023年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・「アイデンティティ浸透協議会」を設置し、今後の計画立案および情報共有等を行うことが決まった。 ・アイデンティティ浸透に関して、大学だけでなく短期大学、初中高などと連動するための施策を立案する必要がある。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・千里国際高等部・中等部におけるキリスト教主義教育の実践

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	